



三重大学の研究最前線

4

救急医療は医の原点。

病気や怪我で困っている人を助けるために総合的に診療できる、地域に貢献できる救急医療が必要です。

三重大学医学部附属病院救命救急センターでは各診療科とともに多職種で医療チームを構築し、24時間365日緊急性の高い重篤な疾病・外傷に対する体制づくり、病院前救急体制の整備、災害支援を行い、どこでもだれでもいつでも最高の救急医療を受けられる体制づくりを進めています。

チームで担う救急救命センターの役割

生命の危機にある急性疾病、外傷に対し、24時間対応で診療を提供する施設が救命救急センターです。特に、三重大学医学部附属病院では3次救急医療^(※)に特化し、津市を中心として県内からの重症患者を受け入れ、各診療科の専門医と救急専門医がチームを組んで診療にあたっています。必要があれば手術や血管内治療を行い、総合集中治療センターで病態が安定するまで医師、看護師はもちろん、臨床工学技師、薬剤師、理学療法士、栄養士、検査技師などさまざまな職種によるチームで集中治療を行っています。

地域においては消防と連携し、病院前救急体制の確立に向けてメディカルコントロール体制の構築を行っています。また、院内の急変に対応するチーム、呼吸管理サポートチーム、栄養管理チームなども救命救急センター主体で診療科を超えて横断的にチーム



三重大学医学部附属病院教授 救命救急センター長

今井 寛 いまいひろし

専門分野は、日本救急医学会指導医・専門医、日本集中治療学会専門医

医療を行っています。

今までは救急医療の充実した研修を目指して三重県から離れてしまう若い医師も少なくありませんでしたが、今後はここ三重県で救急診療の『礎』を築き、多くの病院と連携を取って人事の交流を通してたくさんの仲間たちを集め、多くの若い医師をここで育てていきたいと考えています。



東日本大震災へ赴いた医療救護班

災害支援を行う医療チームを被災地へ

三重大学医学部附属病院は災害拠点病院でもあり、災害に対してはDMAT (Disaster Medical Assistance Team : 災害派遣医療チーム)と呼ばれる災害急性期に活動できる機動性を持った医療チームを保有しています。

東日本大震災の際には発災当日に派遣され、水戸、福島、仙台で活動を行いました。その後も、三重県として岩手県陸前高田における災害支援活動を県内病院の持ち回りで継続して行いました。東南海地震に対する大規模な訓練もっており、ここでも医療機関はもとより警察、消防、地域住民、行政などとの連携を取るよう心がけています。さらには海外への災害支援活動も行い、フィリピン、ミンダナオ島での台風被害の支援のために医師を派遣しています。

三重県全域でドクターヘリが活躍

2011年2月よりドクターヘリの運航が開始されました。緊急性の高い疾患・外傷に対して医師・看護師がヘリコプターで現場に駆けつける攻めの医療であり、時間との戦いです。心臓や脳の閉塞した血管を一刻も早く開通させるため、重症外傷救命のために運航会社・消防機関との綿密なコラボレーションによって、どこでもだれでもドクターヘリの恩恵にあずかれるような体制ができ、今までの救急体制では助からなかった多くの救命例を経験しています。もちろんドクターヘリは夜間飛ばせませんし、天候によっても運航できないことがありますし、騒音などの問題もありますが、ドクターヘリ体制によって県全体の救急医療連携が深まり、救急医療の質の向上に貢献できています。



ドクターヘリを用いた救助訓練

救急医療、災害支援に貢献できる医師を養成

救急医療は医療の原点であることを医療者はもちろん、消防機関、行政も含めすべての国民が理解して、いつでもどこでもだれでも最高の救急医療を受けられる体制構築することが求められています。救急専門医が三重県ではまだまだ少ない状況ですので、救急医療教育を行い、救急医療にかかわる医師や今後予想される東南海地震対策を含め災害にかかわる医師も同様に育てる必要があります。三重県内での救急専門医が効率良く、そして協力して働くことによって、より良い三重県救急体制が築かれるように貢献していきたいと考えています。



2013年5月28日「災害救急医療・高度教育研究センター」開所

※ 3次救急医療 複数診療科にわたる特に高度な処置が必要な救急医療

この記事に関連した情報は右のアドレスでもご覧いただけます。

▶ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp/kyuukyuu/saito/homu.html>